

注) この RCT は日本東洋医学会 EBM 委員会がその質を保証したものではありません

14. 泌尿器、生殖器の疾患 (更年期障害を含む)

文献

布施秀樹, 酒本護, 岩崎雅志, ほか. 尿路不定愁訴に対する猪苓湯および八味地黄丸の効果. *泌尿器外科* 1995; 8: 603-9. [MOL](#), [MOL-Lib](#)

1. 目的

器質的尿路疾患のない頻尿、排尿痛、残尿感を有する患者に対する猪苓湯と八味地黄丸の症状軽減効果

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (封筒法) (RCT-envelope)

3. セッティング

大学病院 1 施設 病院 3 施設

4. 参加者

器質性排尿障害を除く (慢性前立腺炎は含む) 尿路不定愁訴を訴える患者 23 名
解析例は 20 名、猪苓湯群は 9 名全例が神経性頻尿、八味地黄丸群は 2 名慢性前立腺炎、
9 名が神経性頻尿であった。

5. 介入

有効性は自覚症状に基づいて 4 週後に主治医判定

Arm 1: ツムラ猪苓湯エキス顆粒 (医療用) 7.5g 分 3 9 名

Arm 2: ツムラ八味地黄丸エキス顆粒 (医療用) 7.5g 分 3 11 名

6. 主なアウトカム評価項目

自覚症状: 昼間排尿回数、夜間排尿回数、排尿痛、残尿感、排尿時不快感

7. 主な結果

昼間排尿回数は両群とも投与前に比べ有意に減少した。夜間排尿回数も両群とも減少した。しかし昼間・夜間排尿回数は Arm 2 が Arm 1 より早期に効果を示した。排尿痛、残尿感、排尿時不快感も改善傾向を見せたが両群に差はなかった。主治医判定による有用性は Arm 1 で 88.9%、Arm 2 で 100%であった。

8. 結論

尿路不定愁訴に対し、猪苓湯、八味地黄丸は有用。

9. 漢方的考察

なし

10. 論文中の安全性評価

記載なし

11. Abstractor のコメント

漢方薬と漢方薬の効能の比較である。エビプロシュタット (薬草エキス製剤) 発売 1967 年、セルニルトン (セルニチンポーレンエキス) 発売 1969 年、ブラダロン発売 1979 年、プロスタール発売 1981 年、ハルナール発売 2005 年。コントロール薬は 1995 年当時には存在していたと思われる。また基礎疾患が慢性前立腺炎 2 名、神経性頻尿 18 名と偏りすぎているのはいかがでしょうかと思われる。

12. Abstractor and date

藤澤 道夫 2008.10.14, 2010.6.1